

## センター後援行事

### 講演会：中国における学校教育改革と教職開発

講演者 陳 向明(北京大学教育学院 教授)

報告者 秋田喜代美(教育心理学コース 教授)

実施日 2010 年 12 月 20 日

於 教育学部409

#### はじめに

陳先生は、北京師範大学で英語教育の修士課程をおえられた後ハーバード大学で教育学博士号を取得され、現在は北京師範大学教育学院教授として教室研究や教師教育の第一人者として活躍されている。北京師範大学の教職開発カリキュラムセンターのセンター長である。10月から3か月間名古屋大学高等教育研究開発センターの外国人客員教授として名古屋大学で教鞭をとっておられる。本講演では、大きく3点の内容についてお話をいただいた。まず最初に中国における学校教育を知るうえでの基礎となる制度、社会文化的背景、次にカリキュラム改革がどのように実施されてきているか、そして最後に教員の資質向上のための教職開発である。

#### 背景

中国の人口等基本統計に示されるように、広大かつ多様な自治体の中で多くの生徒を抱えている。陳教授が関与した 1996－1998 年の9省 16000 人の生徒ならびに 2000 人の校長や教師への質問紙調査ならびに面接でもっとも達成すべき点として校長も教師も上げるのが基礎知識及び技能の習得である。そして生徒たちの学習が受け身の受動的なものになっていると校長も教師も考えている。この背景にあるのが学力テストや順位の公表に60%の小学校、75%の中学校がさらされており、生徒たちは得点や成績順位の公表に対してきわめて神経質になっている。基礎知識や技能にのみ過度に注意が向けられるために、道徳的価値や、社会的技能、創造性を見落としがちである、カリキュラムの内容も量的

にも多く生徒の生活からはかけ離れた抽象的な内容を扱うことが多いということが指摘できる。そして自ら学び方を学ぶための有効なガイダンスを欠いており生徒の学習評価の手段が試験のみになっているために生徒は受動的な学習をせざるを得ず自信を失うといった事態が生じている。

#### カリキュラム改革

カリキュラム改革において実施過程とその構造が重要であり、2001年から2007年までデザインをたてまずモデル地域で実施し、さらにそれを拡大させ2004年－2005年にすべての小中で、2004－2007年に高校での学校改革が実施された。改革の目的はカリキュラムの機能、構造、内容、指導・学習方法、評価、カリキュラム運営のすべてを見直すことで実施されている。カリキュラムの機能として、大量の知識伝達から生徒自身が能動的な学習者として学び方を学びよいモラル価値を獲得することの援助へという変革がなされた。そのためにカリキュラムスタンダードをつくり、教科書改訂を行い、指導と評価の実現を行うようにした。

具体的な構造として、学問原理によって細分化された科目群をより統合的でバランスのとれた構造、さまざまな地域での多様な生徒のニーズにみあったものへと改訂を行うために、具体的には小学校では、道徳と自然を統合した科目とし、また音楽と図工もアートとして統合された。そして学校裁量の過程の割合を16－20%を行った。また中学校でも歴史と地理を1科目群統合し、生物、化学、物理も科学として1科目群に統合した。

そしてITや探究的活動、地域共同体への地域実践や職業教育なども統合的な実践的活動の中に導入された。カリキュラム内容としても生徒の生活興味関心、現在の社会科学技術の発展にみあった内容の強化が図られ、学習様式として、より情報処理や自ら新たな知識を習得したり問題解決、コミュニケーション、協働のための能力などが重視されるようになってきている。その評価のために多重性知能の考え方が導入されている。

そしてカリキュラムの実施において、その地域や学校、生徒の特長にみあったカリキュラムを行う比率を高め、省、州・市と学校への大綱化がカリキュラムマネジメントにおいても見られてきている。すなわちより科目を統合するか分化するかを選択がゆだねられ、時間の柔軟な設定が教育課程上できるように運用ができるようになってきている。高校では教科のもとでモジュールという発想が導入され学問原理の内的一貫性を高める統合的視点が導入されるようになってきている。

### **教師教育**

養成段階においては新たなモデルとして3年+1年、4年+1年、4年+2年など多様化と共に実習時間の増大が図られインターンシップの強化、師範学校の無償学生プログラムの強化が図られている。また現職教育に関しては学校を基盤とした研修の充実や遠隔地教育の強化などが図られている。そこでの課題は大規模研修会方式か参加研修か、教師教育が担える人材育成、教師教育用教材の充実などを挙げることができる。